



*1: 構造躯体の上ケイ酸カルシウム板9t+ガルバリウム鋼板0.35t+クリア=10tとした場合のサッシ納まりおよび内壁ふかし寸法にて図面を作成している。
 故に、中庭外壁が14tのサイディングになった場合、サッシWは、4t×2=8t短くなり、内壁は4t×2=8tよりふかされることとなる。
 中庭側外壁は、決定済サイディングの純白を希望。不可能な場合は、要相談のこと。

*2: サッシ下端は、大工造作では施工不可能と考えられるため、躯体より鉄筋持ち出しの上、これにサッシ溶接、モルタルにて仕上げが望ましい。

*3: X3通りからサッシまでの寸法は、天井部分躯体からカーテンボックスの寸法までを追い出した際に得られるものである。このとき、カーテンボックス木枠は15tにて作図しているが、現場にてこれより厚い材を使用することを考慮するならば、サッシ位置を中庭側へクリアを見ておく必要がある。
 +40程度までの範囲で、施工者検討のこと。
 (本来であれば、内部床タイル割付に合わせたいが、設計指定タイル在庫状況に応じて検討の必要あり)

*4: AW1寸法および設置位置が決定すると、AW2の高さ、AW5の幅が決定する。
 AW5が決定すると、AW6が決定する。
 ただし、AW1とAW5は同面ではないため、施工上完全なW寸法の一致が難しい場合は、多少の差はOKとする。その場合は、設計に事前相談をお願いしたい。